

GAP

仙台支部報

No. 6



野良犬

佳沢 可生

風の強い日だ

ベランダに出てみる

月あかりも風にゆれてる

柳の枝はおそろしげに

髪を振り乱し、

杉の木は、しなっては戻り

戻ってはしなりしている

風はアパートの北側と南側で

違った声でうなっている

不調和音のなかに

犬の遠吠えを聞いたのは

気のせいか

時計は10時をまわった

きのう出会った野良犬は

どうしているだろう

できることなら

残り飯など携えて

さまよえる犬を捜し

せめて空腹だけでも

いやしてやりたい

いやいや、気のいい人間さん
わしのことならお構いなく
大丈夫なんとかやってきますよ
もちろん、くれれば食べますよ
鋭い眼と、鋭い牙を持った
あの犬は言うかも知れない

ごみ箱をあさり、泥水をすすり
人間の虐待に耐え
それでもなせか堂々と、そう
昨日の私よりも堂々と歩いて
いた

それならば行け 野良犬よ
頼る術もなく、ぬくき犬小屋
もなく、愛をかける人もない
行け 野良犬よ
大地がお前の家なのだ

ああ、我れ天界にありて
他に家なし、
我があるは我が家なり

日本GAP仙台支部報

No.6号

目次 ページ

野良犬・佳沢可生……………1

仙台・山形
合同支部大会記……………2

想念の海・野口敏治……………6

奇跡の思念・熊谷友子……………8

私の行動が
私の言いたいことなのです
菊地啓子……………10

おたより広場……………11

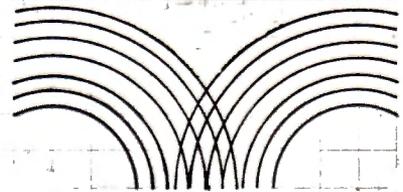
編集後記……………12



講演する久保田会長

盛況!! 仙台山形 合同支部大会

安原弘可



「遠い所、お住
しい所」というい
つもながらの、し
かし、これしか言
いようのない挨拶
で二回仙台・山
形合同支部大会は
始まった。

五月二十四日、
薄曇り——といッ
た名文はニユース
レターにてお読み
いたたく事にして
支部報ではまた違
った角度でこの大
会を振り返ってみ
ようと思ふ。

仙台市市民会館において、過
去、仙台・山形で行われた大会
をばるかに凌ぐ五十六名の出席
者にて、五月二十四日午前十時
より本大会は開催された。

掛け値なし、内容的にも充実
していた。昨年の純会形式によ
る四人の会員の方々による講演
はこの大会の特色でもあった。

安藤澄雄氏に招まる四人の講
演はいずれも第一流の熱演であつた。
安藤氏は小さな鉄一つで三十
分話された。ノミのような字を
びっしり書き込んでいたかとい
うところではなく、書いた原稿
へ全部で百枚と伺つていふこと
殆ど暗記しているというもので
ある。更には私は最初の予定され
た原稿を見せられていたためだ
が、氏の生流への根本姿勢がよ
くでていた名文であつたが、あ
えて彼の三人を紹介する講演に
更えておられた。四人の講演者
の中でただ一人仙台支部とい
うことで、加えてトップアパー
タということで、彼の一説に値する人
生哲学はいずれこの支部報にて

掲載したいと思う。

続く柴田文子さん。

会場にいらしてまで掲載される熱心さに思わず打たれたが、実は原稿がまだ出来上がっていません。たというところで、その強靱な精神に脱帽した。

信念の重要さを強くうたえられたが、彼女の言葉には力があつた。聞く私の心は席に深くよからず知つてはいるが、知り過ぎる程知つてはいないが、一足際をの通り生きておられる。もつとも何人かの男性は彼女の美しい姿に見とれてゐるようであつた。

十令向の休憩の後、山形支部代表の清水正氏の講演。話が雄まつてすぐ、しまりにタオルで眼をぬぐつておられる。しばらくして、気づいたが涙が止めどなく流れてゐるのだ。

高揚した大会の雰囲気を感じた。後で耳にしたが、昨年の総会で講演した藤原明則氏や、今大会の柴田文子さんも講演中胸にこみ上げるものがあり思わず絶句

し。そうになつたといふことであつたが、氏の熱意は堂内の雰囲気も充分盛り上げた。

最後は山口緑氏。山口氏は今年の三月までは山形在住で、支部代表として活躍。現在は東京で某試験突破目指して勉強中である。

ニヶ月程しかいないのにすっかりあか抜けた感じ。実に堂々と話される。しかし、また本物の都会人にはなり切れず、寝グセのついた髪が鉄腕アトムのごとくにはお上りがつていた。

講演の内容は、花が氏のテレパシーに応答して動いた話など興味深いものばかり。非常に親しくさせていた。私にも初耳であり、この晴れ舞台のため秘密にしていたのかも知れない。

午後の部に入る前にちよつとしたハプニングがあつた。久保田会長の体調が思わしくないので、昼食後、椅子の背にもたれて瞑目されておられたと思つたら、いつの向にか地下の食

堂へ行かれていた。気分が良くない」といふことで会館の休憩室で約四十分程休まれた。

橋島の石塚聖子さんが看護婦というところで様子を見ていた。いたりしたがしばらくすると、もう大丈夫と、ご自分から起き上がった。その向、安藤氏のアイディアで四人の講演者に対する質疑応答を田中義則氏の司会で行つていた。

会場に戻られてすぐに久保田会長は講演を始められた。私も会長の体に向かつて「健康」と反復思念はし続けていたがやはり多少不安であつた。

長が、講演も半ば頃になると会長の言葉も力強くなられ、横から見ている私には体から何らかの放射線が出てゐるよう思へた。思えたと言ふより、この場合見えたと言ふ方が良いが、同時に「大丈夫」という印象も湧かび以後は安心して話に聞き入つた。ハード入ゲジニールによる過労からの失調のよびであつた。

コウ コヒ-5 (64/44)

講演の内容をここで全部お知らせできないのが残念だが、先程まで横になっていたとは思えぬ程力強かった。

記念写真は例によって久保田会長の「せえの」という掛け声で威勢よく撮影された。

こうして大会は久保田会長の閉会の挨拶、続いての大拍手をもって無事終了した。

楽しかった

記念夕食パーティー

大会終了後は仙台市大町にある「精養軒」にて立食形式の夕食会が開催された。こちらへも四十数名の方々が出席され非常に愉快な交流をもつことができた。

参加者全員はきれいなデザインの名札をつけていて、この名札は皆さんの交流に大変役立った。安藤澄雄氏の手製である。

パーティー会場の風景

教え子だった阪田尚子さんと

遠藤昭則氏

・今は何を教えてるのかな？



・美女二人に囲まれる……？
右から

柴田文子さん
伊藤達夫氏
笠原良子さん

県民の森へ

ドライブ

— 雨ふりが青空に —

大会翌日の二十五日は希望者による仙台市北部の「県民の森」へのドライブを行った。

十九名の参加者があり、レンタカーを借りるのに手回し、出発する頃には曇天の空からポツリポツリと雨が降り出した。天気予報は曇りのち雨というので私としては曇りでもいい、雨さえ降らねばと祈るような気持ちであった。

県民の森に近づくとつれ雨が強くなってくる。「朝鮮に雲を切る超能力者がいて云々」などと私が久保田会長と話しているうちに目的地に到着、雨はまたポツリポツリくらいになった。この後青空が広がるには誰にも想像できなかった。ポツポツ雨の中昼食の弁当を食べるため屋根のある休憩場所に移動した。皆さんが弁当を食べ終わる頃

何と青空が広がり始めた。おかげで一行は、雨上り、晴れ上がった日光と、清浄な空気、更に樹木達のエネルギーを充分満喫することができた。

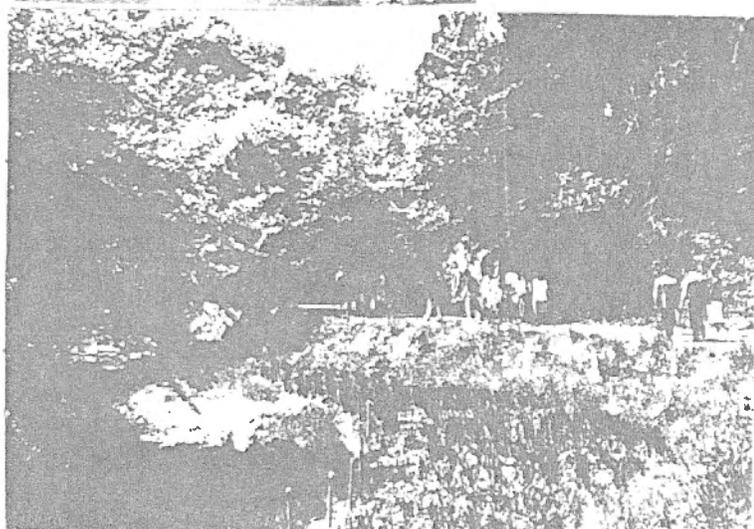
帰京 間際の

ハプニング

天候好転で一同気分よく仙台駅へ向かう。

駅ではさすがに久保田会長も少し疲れた様子。ハードスケジュールの中本当に御苦労様。山口緑氏も会長と同列車で帰京する予定であったが発車向際

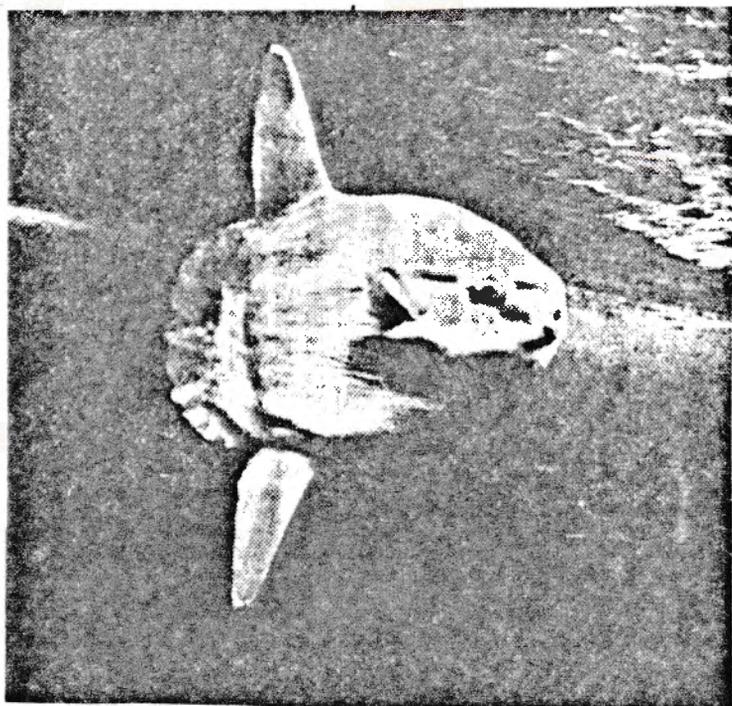
〈県民の森山道〉 〈池を前景にして〉
(上) (下)



どうにも仙台に留まって欲しい、という私の願いが彼に通じたのか、ベルが鳴ろうとする直前、列車を降りた。山口氏は二晩我家に滞在し大いに語り合った。今大会の成功は、出席者の皆、久保田会長、そして奉仕的に協力下さった仙台、山形支部の方々の御陰で、厚く御礼申し上げます。次第である。(完)

想念の海

野口敏治



大水そうの中をユラリ、ユラリと泳ぐマンボウ

先日久しぶりに清水市三保にある海洋博物館に行つてきました。この名物は世界一の大水槽（縦十m、横十m、高さ六m、ガラスの厚さ十五、六cm）です。最近、水槽のガラスを新しく交換したので、以前より透明度が良くなり、とてもきれいに見えました。水槽の中に、以前はいなかつた、巨大なマンボウが、ユラリ、ユラリと他の仲間と一緒に気持ち良さそうに泳いでいました。このマンボウは、私達が行ったその前日の夕方、清水市三保の羽衣の松近くの海岸で、観光地引網にかかつたもので、それを漁師からの連絡で博物館の大水槽に放したとのこと。その初登場の日に見に行つたわけだ、とてもラッ

キーでした。このマンボウも過去二回同博物館で飼育したことがあるそうですが、長くて十五日間しか生きなかつたそうです。今回のマンボウは、もつともつと長生きしてもらいたいものです。

水槽の中の魚たちも、以前は広い海で自由に泳いでいたのです。今は私達の目を楽ませてくれています。ひとたび水槽の中に入れられ、人工的に飼育されても、実に狭く、よく、その場に慣れずして仲良くやっています。しかしマンボウの例のように水槽で飼育したら十五日間しか生きなかつたというのでは、すこしかわいそうな気がします。そのまま自由に広い海で泳いでいければ、もつと長く生きられたことでしょう。これには、水温、水圧、エサその他いろいろの事が関係してくるだろうと思います。それ以外にもうひとつ重大な問題があることに気がきました。博物館というところは、毎日多くの人が見学に来ます。この見学に来る

人達の想念の影響も多分に受けるのではないでしょう。一日何百人、何千人の見学者、その人達の想念を毎日く受けているのです。特にマンボウのように目立つ魚は、想念が集中してしまふのでしょう。これらの想念はすべて宇宙的であるとは限りませんのでかなりまいつてしまふのでしょう。

この例では、上野動物園のパンダにしてみても同じ事が言えると思います。仮に私がパンダのオリの中に入つて毎日、毎日何千人、何万人もの見学者が訪ずれば、想念の嵐を集中させられたら、一日どころか数時間もがマシな事はできないでしょう。普段なにげなく発している想念であつても、これはあらゆる物に、あらゆる影響を与えています。それらの想念が一個所に集中すれば、それを強力なバツクとなり、山をも動かす力が生じてくるのでしょう。

私達をして、一般の人達も、この想念の重要性をもつと認識する必要があると思います。アダムスキー師も言っています。

コフ コエ-5 (64x44)

す。人間にとつて最も必要なことは今日人間が発している想念を直視して、それが宇宙の原理といかに異なつてゐるかを調べることです。」

「マイナス想念を口に出さない思わない。」
これは私が毎年、年頭の言葉として、誓つてゐることです。マイナス想念を口に出し、思つてゐると、それと同等の想念をあらゆるところから引きよせ、増々マイナス想念が多くなり、雪だるま式にかたまりとなり、ゆきます。ここで想念觀察の重要性はもう言うまでもありませんが、私の場合、マイナス想念が出そうになつたら、自分で作つた「ミラクルワード」を思い出し口に出して唱えるようにしています。

私達は毎日想念という大海のなかで泳いでいます。どのようにな泳いでいくかは各自の自由です。が、なるべくマイナス想念という海流は避けて、プラスの想

念の海流に乗つて泳いで行きたいものです。
ハ克ロ

ハ付記レ

後日、野口氏からのお手紙によると、文中のマンボウ君は六月四日昇天したということ。三〇日間はありましたが見学者の目を驚かしてしませたくれました。というところで、今頃、大海で豁然と泳いでいる事でしょう。もちろんままれ変わつてますが、まだ子供かな？

原稿大募集!!

仙台支部報に掲載する
原稿を募集しています。
随筆、意見発表、詩等
としとし、並原まで
お寄せ下さい。

いさん見入る日と少ない日と、く見えぬという日は一日もななく、昼も夜も暗いところへ行けばたいへん暗いところへ夜はかならず見えて、暗いほどよけい光りが明るく見えます。そしてこの後者の尾さんの予言があつたのには驚きました。

疑念答の「向ア」は私かいたしませんでしたか？ レントゲン写真では素人が見てもわかるほど私の首の骨は非常に曲がつており、肩はすぐこり、この原因から三又神経痛では長年苦しみました。この為の障害が左側に出ましたが、左手を上にあげるのは大変な苦痛で、自転車で走る時も右手だけを引いて、左手を上にあげる時は大変な苦痛で自転車で走る時も右手だけを引いて、左手は力を出すと苦しいので、ハンドルにただ添えてる程度でした。ところが秋も半ばになつたある日、突然に気づいたのです。左手が、大変軽くなつていく。右手と全

く変わらなくなりました。苦痛もなくなり、パツとなるので、この数年間はもうあきらめて通院もせずになりました。両手をまっすぐ上にあげ、瞬間にイのできる自分を発見した時の驚き！ もう本当にバンザイ！！嬉しくてしかたありません。左手だけでも自転車で乗れるくらゐに力が戻りまして、ただだ夢のように感謝でいっぱいであります。思念のおかげで宇宙より光りをいただいた全快いたしました。ホワイテ、ンブ氏は心答の中で「病氣治療の最大は心答は人間自身の内部にある」と教えて下さいました。それは真実でございました。

最近になつて知りましたことですが、この宇宙平和の思念を宇宙の光りが体内に入り、病人でいる細胞が照らされ、癌その他の難病が全治した方々がおられることですが、私は自分の体験から、素直に信じて、昨日

今は、創造主の想いと同じに、大宇宙のすべての星々のすべての人々を、我が身と同じに、いとおいしく思い、真心からその一人一人の幸福をひたすら念じつづけたい。主の光りに包まれ、癌も交通事故も恐れなくなる。何一つない。この強い信念を持つて、過ごさず、心安らかに日々を過ごさせてください。まして、本当にありたいことなどにはならない。ある日、ある時エネルギーを消耗し、生まれ変わりたいものでございませぬ。そう願ひ、いたらないなから、もう精進させていたたいです。

「編者注」

この記事は、熊谷友子さんから編者宛の手紙の一部をそのまま書きうつしたものです。

また後日の手紙で光りの色は白銀色というより、少し黄金色がかつた白い光という方が近いとのことでした。

の意識がいて下さって、愛があるのだなあと思いました。私
もいつも何かに気づいて、愛する
ことができたなら、と思いまし
た。へ第三章 返信で、好き
になる、あるいはそれだけでい
いのかも知れませんが、いい
ところも心に残りました。

笠原さんの「雑想」を読ん
でいる人なことを思い、なぜか
ら私も分かったような分から
ないような感じになつてきま
すけれど、悲しみ苦しみあつても
そこから力強く突き進む勇気を
奮い起こさせる作品は芸術的
といえるのかも知れないと思
います。

支那報を送っていただき本
当にありがとうございます。本
当にとっても嬉しかったです。

—— 中 略 ——

だんだん暖かくなつてきて、
菜の花も明るく輝いています。
小鳥さんもあちらこちらでさ
えずっています。

これからも頑張つていこう
と思います。

後 記 集 編

・今回の支那報は今まで
ない力作と自分では思つて
います。発行までの間が
長すぎるのでブラス・マイ
ナス〇と言われてもしかた
ありません。片手間の気持
ちでは決してないのです。
出さねばならぬという強迫観
念なしに地味にしかし真面
目に続けていきたいと思
います。

・編者の力不足のため、な
かなか原稿が集まらず、な
かいて毎回、編者の駄文
ではつまらないので、今後
は発行周期にこだわらず、
良い原稿が集まったら出す
という方式をやつていこう
と思ひます。決して中止は
しません。

・ということと今回も原稿
を大募集する次第です。次
回より発行部数も大幅にア
ップします。奮つて投稿
下さるようお願いいたしま
す。

・仙台・山形合同支那大会では
本当に多くの方にお集りいた
さあらためて感謝の意を表す
次第です。こういって活動全般
に私が最近強く思うのは、も
とリラックスして、もつとゆ
たりやろうという事です。決
して不真面目に適當にという
とではなくあまり緊張せずにと
いうくらいのも意味です。

・最近、口無為自然心という言葉
が脳裏から離れません。無為と
は心の勝手な判断を為さず、自
然とは法則に従つて、つまり意
識の声に従つてという意味に私
は考へています。自分の思うま
ま、自己の正直な率のままとな
釈するとエゴの思向くままにな
りかねません。緊張したり焦
たりすると口有為不自然心にな
つてしまいます。〔弘〕

GAP 仙台支那報 No.6
編集発行人 笠原弘可
発行所 日本GAP
仙台支那
〒980 仙台市東10番丁 同鉄アパート1518
81.7 領価 100円